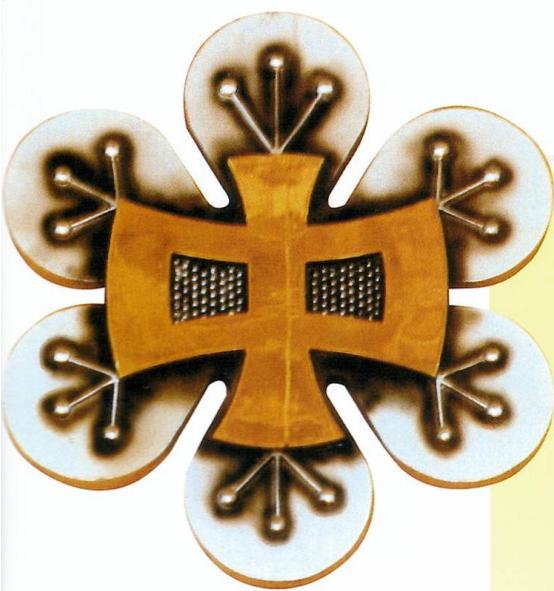
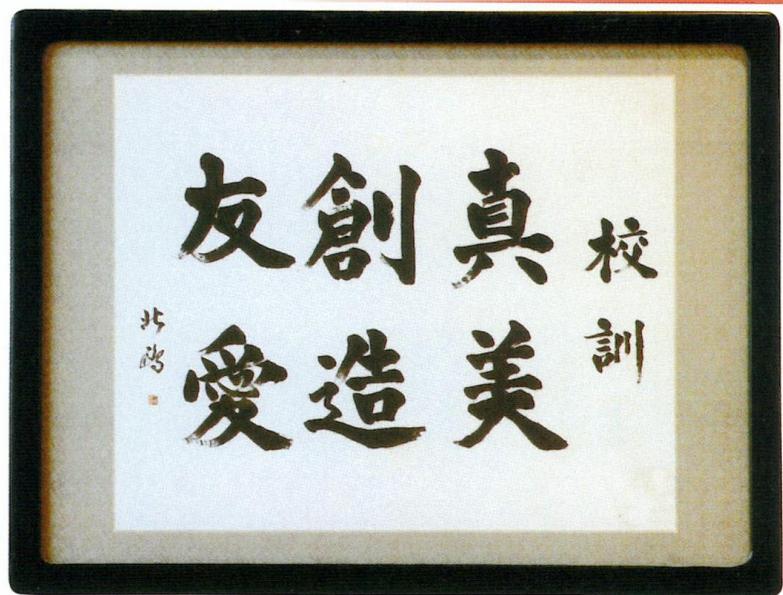




○校旗

○校訓



○校章

雪華宝中

小学校が、江陽の「陽」。従って中学校は「江」から校章を発想することで、小中の一貫性と統一をはかった。

発想にあたって、「教育は水の如く自在にして、いのちの栄えを司る」ことに思いをはせ、水の最も美しい姿を雪華の形に求め、伝統に磨かれた雪紋をかりて、自然の恵みと偉大さを象徴し、真理探究の険しさと美しさを表した。

中央には、「中の宝槌」をのせて、若人達の意志が、願いに高められ、その働きが徳に通ずるとき、真の幸福への道が招かれることを示唆した。

これらは、昭和四十二年度開校にむけて、草創の努力をかたむけられていた、初代校長夏坂廣志氏の意志により、栗村通盛氏から相談を受け、その意をくみ考案したものである。

校歌

作詞 橋山 武夫
作曲 木村 繁

天の廣原 太平洋と
寄り合ふ涯す 日出づとこう
江陽 江陽 がわし 宇都
輝けり 創造の大焰
若人の 命は燃えそ
ものなべて 常に新らし

偉靈仰げん
馬渕流れ
海幸の郷
聞けや
真美れ
友愛の世界を
臥牛の山
極まどこう
潮のごとく
時代の機械の轟き
わが学び
達てんかな

均譜

(混声三部合唱)

江陽中学校 校歌

横山武夫作詞
木村繁 作曲

Moderato (♩ = 100)

あめのひはうだいへいよと よりあ うはぐ
いあがんがゆうのやま まやう かがれ

ぱりゆかうぜのいのち一まことせのなやくつねにあ
じゅうしへあれわが一まことにうあいのせかいをた

ういすとこらは うと かくも
のさわまとニラタ (まの) まーと うとか

まーじー いれまんかねー

うながす ががベリーリ ようやかーおかきか
かーじしく まーけー や じだいのまかいのと